

51 リハビリテーションセンター病院フットケア専門外来に通院する

障害者のフットケアのニーズ ～その1 フットケア専門外来の受診者の特徴～

外来・入所者診療室 中島美香 加藤晴美 溝口尚美 田嶋千秋

【はじめに】

A病院の外来受診者の6割以上が何らかの障害を有している。受診時にフットケアについての相談を受けることが多かったが、ケアを提供する環境が整っていなかった。そこで、ケア提供の環境を整備するために、外来看護師が医師へ働きかけを行い、平成20年7月にフットケア専門外来を開設した。糖尿病フットケアについては多くの報告がされているが、障害者のフットケアにおけるケアニーズについての報告はない。本研究の目的は、障害者のフットケアのニーズを明らかにし、今後のフットケアの充実に資することであり、今回はA病院フットケア専門外来受診者の特徴を明らかにすることである。

【結果】

開設から平成22年9月までの受診者数は、560名（のべ受診数1320回）であり、そのうち調査した人は148名（のべ受診数551回）だった。男性78名、女性70名であり、外来患者全般と比較すると女性の受診者が多いことがわかった（図1）。男性は「脊髄損傷患者・その他の脊髄疾患」が最も多く4割、女性の中で多かったのは「基礎疾患をもたない人」が約3割となっていた（図2）。年齢は6歳～87歳で、年齢階層の分布をみると、50歳・60歳代が多く見られた。受診者の8割が糖尿病をもたない人だった。受診回数では特徴として、糖尿病をもつ人は受診回数が多く、また「靴・装具」を目的にした場合、3回以上の受診が6割にのぼった。受診目的では「足」目的で受診する人が多く、詳細を見ると「麻痺のない人」は鶏眼・外反母趾、「麻痺がある人」には褥瘡・白癬が多かった（図3）。診断名については「爪」「靴・装具」目的の受診者でも足の変形や足病変と診断されているケースもあり、受診目的と診断名は必ずしも一致しないことがわかった（図4）。

【考察】

フットケア専門外来の開設のきっかけから考えると、当初障害のある人の受診が多いと考えていたが、基礎疾患・障害・麻痺・糖尿病がない人でも、フットケアのニーズがあることがわかった。受診回数は受診目的によっても異なり、受診目的と診断名は必ずしも一致しなかった。その理由として、フットケア専門外来を受診する人は、本人が気になる症状を受診目的としているが、その症状の要因や、その他の足のトラブルを抱えていることを問題視していないことが考えられた。看護師は受診目的にとらわれず、足の状況、基礎疾患、障害や麻痺の程度、全身状態、生活状況、セルフケア状況などの視点を持ち、それらの関連をふまえた観察・アセスメント能力が求められる。生活状況、セルフケア状況のアプローチは看護が得意とする領域であり、それらの視点がどのように関連しているのかをひもとき、ケアの提供の実際を交えて介入する能力も重要であることがわかった。

